

2) 地表地質踏査露頭など写真及び説明

県道瀬戸設楽線沿いの露頭など



1
片麻状構造が完全に流れ盤となっており、背面に開口状の引張亀裂のある露頭。



2
ヘアピンカーブにおける地すべりと大型土囊による土砂流出対策。SL-4の包括的地すべりの素因となっている緩傾斜破碎帯が分布する。



3
崩壊面頭部に見られる黒色粘土化したほとんど水平な緩傾斜構造を持つ破碎帯。これ自身も移動土塊の可能性が高い。



4
崩壊面頭部に見られる破碎帯の接写。



5
隣接する沢筋には破碎帯中の中石と見られる硬質な珪化変質した片麻岩が見られる。この沢に表流水はなく、崩壊地が浸潤する。

本流沿いの左岸の露頭状況



6
J4-7下の河床。砂質片麻岩の硬質な露頭。片麻状構造自体が主要な分離面となっていない。



7
砂質片麻岩中に貫入しているペグマタイト。



8
J4-8下の河床。規模の大きい護岸工が構築されている。堅岩の露頭はない。



9
地点8の近傍。微褶曲構造が見られる弱破碎岩。



10
本流左岸は露頭が少なく、護岸工が多くの範囲で構築されている。数m径の巨転石が散在している。

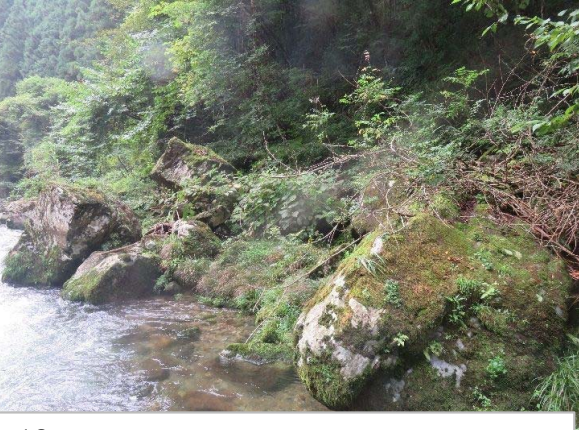
SL-2ブロック末端部の状況



11
左岸河床には、岩塊を主とした土石の押し出しが顕著。



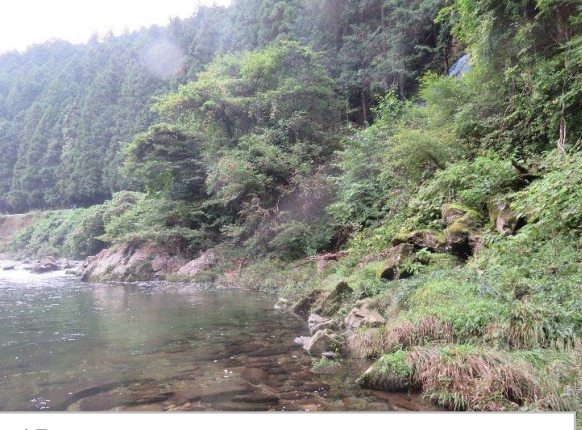
12
数m径以上の巨転石が押し出している。



13
押し出し時には、一部河道閉塞が発生した可能性も考えられる。



14
押し出し時には、一時的に河道が右岸側へ移行し、右岸側の斜面下部が侵食を受けた地形が見られる。



15
押し出し土砂が堆積した箇所の直上流には、ナマグサ淵が分布し、左岸には堅岩の分布が見られる。



16
ナマグサ淵の全景。淵の直上流には、両岸から岩盤がせり出しており、その上流側には河道閉塞時に形成された沖積段丘が右岸に分布。



17
旧田口鉄道跡の町道平野松戸線の切割。崩落堆を切り割って、設置されている。



18
切割の山側は、空石積みによつてのり面保護されているが、常時の湧水と押し出し変形が見られる。



19
ナマグサ淵直上流右岸の岩盤露頭。砂質片麻岩～縞状片麻岩の堅岩が分布する。



20
ナマグサ淵右岸の岩盤露頭。砂質片麻岩が主体であるが、一部閃緑岩の堅岩が分布する。

SL-2ブロック上部斜面



21
標高360m付近の湧水地点。深層すべり面の末端部よりやや高い位置にある。



22
江ヶ沢に面する斜面の最上部遷急線直下。縞状片麻岩の硬質だが緩んだ岩盤が分布。



23
斜面の転倒性変位によって、赤松の根曲りが顕著となっている。



24
斜面上部へ続く急斜面。



25
浅層すべり土塊の一部を構成する崩壊地頭部の緩んだ岩盤。せり出しが見られる。



26
崩壊地頭部の遷急線付近の状況。



27
崩壊地頭部の遷急線直下には、せり出しと緩んだ岩盤の分布が見られ、落石が頻発している。



28
頭部崩壊地の状況。完全に分離した移動岩盤が斜面上に残存している。



29
岩盤すべり跡地。左側の平滑面(苔が付着)は、完全な平面形状で、スリッケンラインが認められる。



30
幅15～20m規模の岩盤崩落跡が連続している。残存尾根部が不安定化している。



31
地点29の岩盤崩壊跡地を側方から望む。
岩盤構造に規制された楔状ブロックの崩壊。



32
SL-2ブロックの北端付近では、最下部の遷急線の侵食によって上部斜面の不安定化が生じている。

SL-3ブロック



33
町道際の泥質片麻岩の露頭。
甌穴状の穴が穿っており、成因不明。



34
最下部遷急線の上部斜面は、露頭がなく、崖錐が薄く覆っている。



35
最下部遷急線の上部斜面には、部分的に崖錐堆積物の分布が見られる。



36
SS-13斜め上方斜面における湧水点。
常時の湧水が認められる。



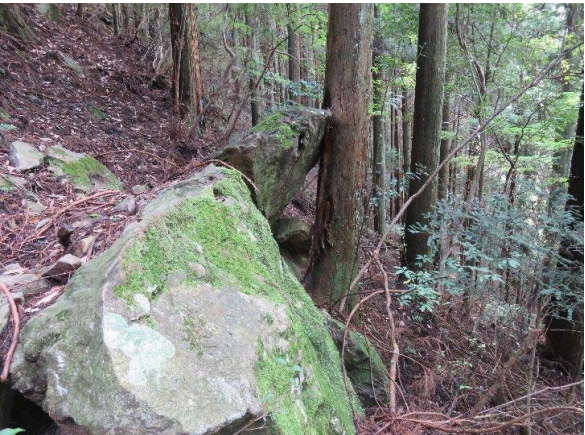
37
最下部遷急線直下の顕著な湧水点。
豪雨時には、表流水が顕著である。



38
湧水点直下に分布する閃緑岩の小露頭。
連続性は未詳である。



39
SS-12地点の上部斜面に見られる砂質片麻岩の硬質露頭。閃緑岩風化帯の上位に分布する。



40
SS-12地点の近傍の立木に支持された転石。
砂質片麻岩露頭の浮石から落下したもの。



41
J4-7地点の足場状況と後背斜面状況。
ほぼ最下部遷急線付近に位置し、7m層厚の崖錐堆積物の分布が確認されている。



42
SL-2ブロックとの境界部の崖錐斜面。古い崩壊堆が斜面上に残存している。

SL-4ブロック周辺状況



43
ブロック上部斜面の表層に見られる地すべり性の小岩盤ブロック。岩盤構造を完全に残している。



44
斜面中腹の緩斜面上に分布する岩塊。緩んでおり、風穴状の開口部が見られる。



45
標高420m付近の遷急線直下の状況。岩塊状の緩んだ岩盤が散在する。



46
標高420m付近の遷急線直下の状況。現在の崩壊の発生源となっている。



47
遷急線直下の著しく緩んだ岩盤状況。角礫質堆積物の上位に分布するものと考えられる。



48
J2-6近傍の斜面状況。標高410m付近であり、中部の顕著な遷急線の下方斜面に位置している。SL-3ブロックとの境界。



49
J2-6の上部尾根には、所々岩盤の分布が認められる。



50
スカイラインが中部遷急線となっている。



51
包括的SL-4ブロックの古い滑落崖に発達する最近のガリー状の侵食谷。最上部の岩盤は流れ盤である。



52
地点51の谷頭の流れ盤の泥質片麻岩露頭。



53
送電巡視路沿いの追加提案ボーリングJ2-7地点候補地。



54
上部緩斜面上に位置しており、角礫質堆積物や古い地すべり堆積物の分布が予想される。



55
上部緩斜面上に見られる比高1.0～1.5m高の段差地形。比較的最近の地すべり活動を反映していると思われる。

河床部の状況



56
本流右岸河床部に分布する砂質片麻岩～縞状片麻岩。非常に硬質で、片麻状構造が目立たない。



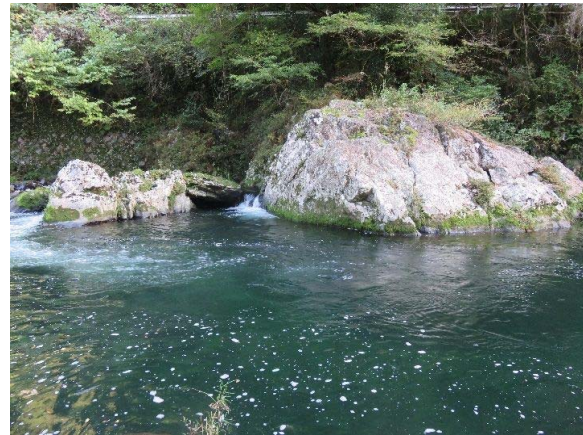
57
釣り人様の河川へ降りるための斜路とその下部に分布する砂質片麻岩露頭。



58
砂質片麻岩～縞状片麻岩の硬質露頭。片麻状構造は見られるが、弱面とはなっていない。



59
砂質片麻岩とこれに貫入するペグマタイト。境界面は密着している。



60
ナマグサ淵左岸状況を右岸から望む。堅岩が露出している。



61
SL-2ブロック斜面末端の押し出し土砂部の全景。一時、河道閉塞を起こした可能性が高い。



62
塊状の閃緑岩露頭と片麻岩類との境界の破碎帯。幅150cmの固結状多亀裂帯を伴っている。N85W/90。



63
調査地最北部の河床に見られる中粒花崗岩とこれに貫入するペグマタイト脈。



64
町道平野松戸線の川側盛土は護岸工が構築されているが、基礎洗掘が進んだ箇所も複数認められる。